



学校だより くんとう

# 薫 降

令和4年9月26日(月)

かほく市立七塚小学校

校長 宗廣 進一

学校教育目標 「自ら学び、心豊かにたくましく生きる七塚っ子の育成」

## 実りの秋 に向けて



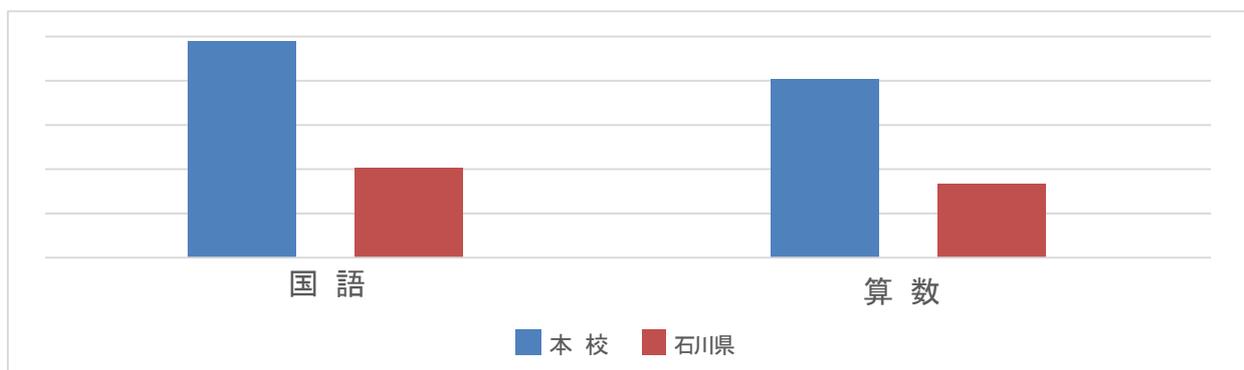
2学期が始まり20日余りが経過したところですが、児童は落ち着いて学校生活を送り、良い2学期のスタートができたと思っています。これも、夏休み中に各ご家庭で規則正しい生活を送れるように気をつけて下さっていたことが映し出されているものと思っています。また、今年の夏休みには3年ぶりに毎朝のラジオ体操を復活させました。「3年ぶりなのに、今年の子ども達は過去にないほどきちんとした動きで体操していたことに感心しました。」という声がたくさん寄せられました。7月1か月間、各学級で練習してきた成果を児童と共に喜ぶと同時に、保護者や地域の方々のご支援ご協力のお陰と感謝しております。

さて、台風14号の直後からめっきり秋らしくなり、たいへん過ごしやすくなりました。新型コロナウイルス感染症を右に左にかわしながら、毎日の授業をはじめ、運動会や遠足、社会見学、宿泊体験学習などの行事等、学習活動に精一杯取り組んでいこうと思います。いろいろなことで、ご協力をお願いすることがあるかと思いますが、何卒よろしくお願い致します。

さて、今年度の4月に実施した県の基礎学力調査(4年・6年)、市の学力調査(5年)、全国の学力学習状況調査(6年)の結果が全て届きましたのでお知らせいたします。それぞれの学年において、これまでの成果やこれからの課題が見られる結果となりました。本校におきましては、以下のように分析し、授業改善や家庭学習の充実など、今後の学力向上に向けて取り組んでいきたいと思っています。

### < 学力調査の結果のお知らせ >

#### 4年生 【 令和4年度 県基礎学力調査 】



○4年生の国語では、県平均正答率を大きく上回った。

○話の中心が明確になるよう話の構成を考慮ことや、ローマ字や基礎的な漢字の読み書きはよくできていた。

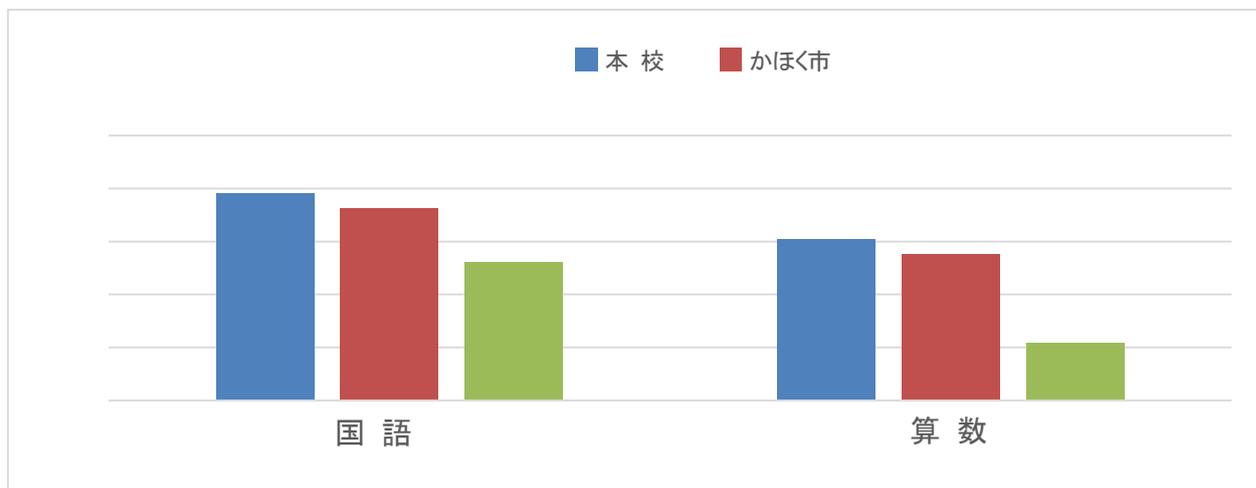
▲主語と述語の関係を正しく捉えられていなかったり、報告文を書く際に集めた材料を比較・分類し、伝えたい内容を明確にする力が弱かったりした。

○4年生の算数では、県平均正答率を大きく上回った。

○多くの設問で県平均を上回った。基本的な計算や数の仕組みについて理解できている。

▲図形の定義を説明したり、目的に応じて適切なグラフを選んだりする設問では正答率が低かった。

## 5年生 【令和4年度 市 学力調査】



○5年生の国語では、全国や市平均正答率を上回った。

○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えたり、叙述をもとに段落相互の関係を捉えたりすることはよくできていた。

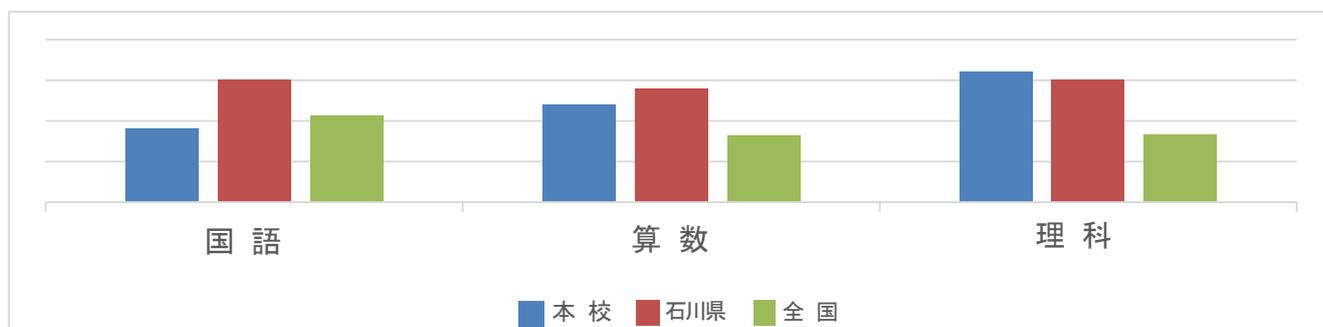
▲連用修飾語を理解したり、条件作文において最後まで書き切ったり、事実と自分の考えを分けて書いたりする力が弱かった。

○5年生の算数では、全国や市平均正答率を上回った。

○四則計算の順序や概数の表し方についての理解はできていた。

▲およその面積を選んだり、単位換算したり、二次元表にある数を求めるための説明をしたりする力が弱かった。

## 6年生 【令和4年度 全国学力・学習状況調査】



▲6年生の国語では、全国や県平均正答率を下回った。

○話し言葉と書き言葉の違いや、必要なことを質問し聞きたいことの内容を捉えることができていた。

▲文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよさを書いたり、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えたりすることが弱かった。

△6年生の算数では全国平均正答率を上回ったが、県平均正答率を下回った。

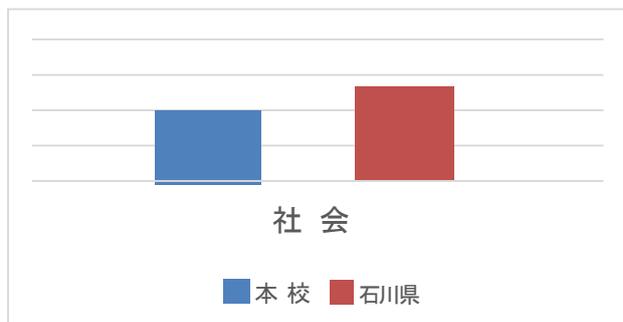
○示された場面の式の意味を説明したり、表の意味を正しく捉え空欄の値を求めたりすることはできていた。

▲見積もりによる数の処理の仕方、オレンジジュースの量が変わってもそこに含まれているオレンジ果汁の割合は変わらないことへの理解が弱かった。

○6年生の理科では全国や県平均正答率を大きく上回った。

○観察で得た結果を、問題の視点で分析して自分の考えをもったり、記録の結果を表したグラフを予想を基に選んだりすることはよくできていた。

▲光の性質に関する知識や、自然の事物・現象について問題を見出して書いたり、まとめの根拠を実験の結果を基にして書いたりすることが弱かった。



▲6年生の社会では、県平均正答率を下回った。

○ごみ焼却場のしくみや、ごみの減量化・リサイクルについての理解はおおむねできていた。

▲資料の数値は読み取ることができたが、二つの要素について結びつけて捉えたり、資料を基にして読み取ったことを書いたりすることが弱かった。

## < これからの学習指導で力を入れること >

### 国 語

- ・題意をつかませるため、問題文や資料の中の大事な言葉に線を引かせる指導をする。特に書く場面では、相手や目的を明確にして書かせ、友達と交流することで自分の文章のよさに気づかせたり、さらに推敲させて最後まで書き切らせたりする指導をしていく。

### 算 数

- ・算数で学習したことが日常生活でどのように結びついているのかについて考えさせたり、生活経験から問題を作る場面を取り入れたりする。また、三角ロジックを用いて順序立てて説明するように促したり、算数用語を使って説明を最後までしっかり書き切らせたりする指導をしていく。

### 理 科

- ・観察や実験は、「こんな結果なら、こんなことが分かる。」というように具体的に見通すことを意識しながら、分析したり解釈したりできるようにしていく。  
また、情報を整理してどのようなことを解決していきたいのか、実験の目的をはっきりさせる。さらに実験後、正しい結果や考察を理科用語を使ってノートにまとめる指導をしていく。

### 社 会

- ・資料の読み取りの力を高め、資料のどこに書かれているか根拠を明確にして説明させたり書かせたりしていく。また、社会的用語は、覚えるだけでなく、授業後半で活用する場面を取り入れていく。

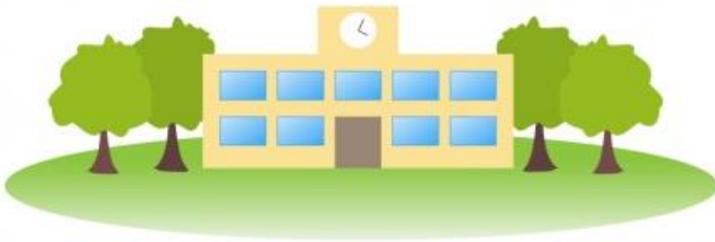
## < 4年生・6年生 質問紙調査より >

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対し、肯定的評価をした児童が4年生で100%、6年生で

81%おり、自己肯定感の高さが見られる。引き続き、ひとりひとりの良さを各家庭と共有し、児童に伝え、個性を伸ばしていきます。

▲「平日に1日あたりテレビゲーム（スマートフォンなどを使ったゲーム含む）をしている時間」については4年生では1時間より少ない児童が36.4%で一番多く、電子端末機器に振り回されないで生活していると言えます。6年生では1時間以上2時間より少ない児童が41%で一番多く、4時間以上の児童も数名おり、生活習慣の乱れが心配されます。また、SNSや動画視聴の時間はここには含まれておらず、4年生では「30分」ほど、6年生では「30分以上1時間より少ない時間」見ている児童が一番多かった。各御家庭で、電子端末機器の利用の仕方についてルールを決め、守らせていくことが望まれます。

○4年生で「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」の質問に対し、肯定的評価をした児童が95.5%、6年生で「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしているか」の質問に対し、ほとんどの児童が先生や友達、家族に聞いたり、自分で調べたりして解決しようとしていると回答していた。「主体的に課題に立ち向かう元気な児童の育成」に向けた様々な取組の成果が少しずつ出ているものと考えます。



以上のご報告となります。